



北海道 / 駒生川

こまおいかわ

# よみがえれ！駒生川 手作り魚道が生み出す生物多様性

## Profile



【河川名】  
網走川水系駒生川  
【執筆者】  
町田善康(駒生川に魚道をつくる会)

## 経緯・目的

### 駒生川の姿

かつての駒生川は上流から下流まで深い森の中を大きく蛇行して流れ、自然豊かな環境はイトウなどの希少種も育みました。しかし、1970年代から大規模な治水工事や農地開発によって直線化され、川底と川岸の3面がコンクリートで固められてしまいました。また、直線化にともなって、川が急こう配になることを防ぐため、9基の落差工と言われる段差が次々と造られました。

### 失われた自然

その結果、海と川とを行き来していたサケやサクラマス、イワナなどのサケ科魚類は、落差工を越えて遡上することができなくなり、駒生川から姿を消しました。さらに、サケ科魚類の絶滅は、魚を餌とするヒグマやオジロワシなどの動物

### 手作り魚道

たちにも影響を及ぼし、ついには川がつかないでいた海と森との物質循環を途絶えさせてしまいました。  
そこで、私たちは、ふるさとの生物多様性の再生を目的に、2011年より、魚道づくりや魚類の生息環境の創出に取り組んでいます。

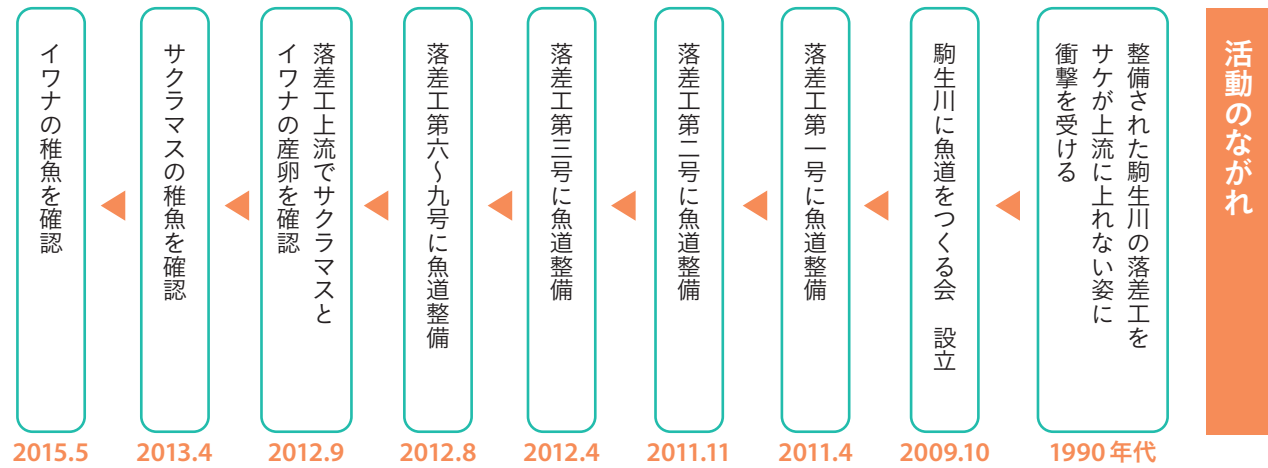


「サケを遡上させたい」一人の農業者の言葉に多くの人が共感し、手作り魚道を通してふるさとの川の生物多様性の保全と再生を目指しています。



自然豊かな上流域

## 活動のながれ



魚類調査



遡上したサクラマス



魚道づくり

## 実施体制・スキーム

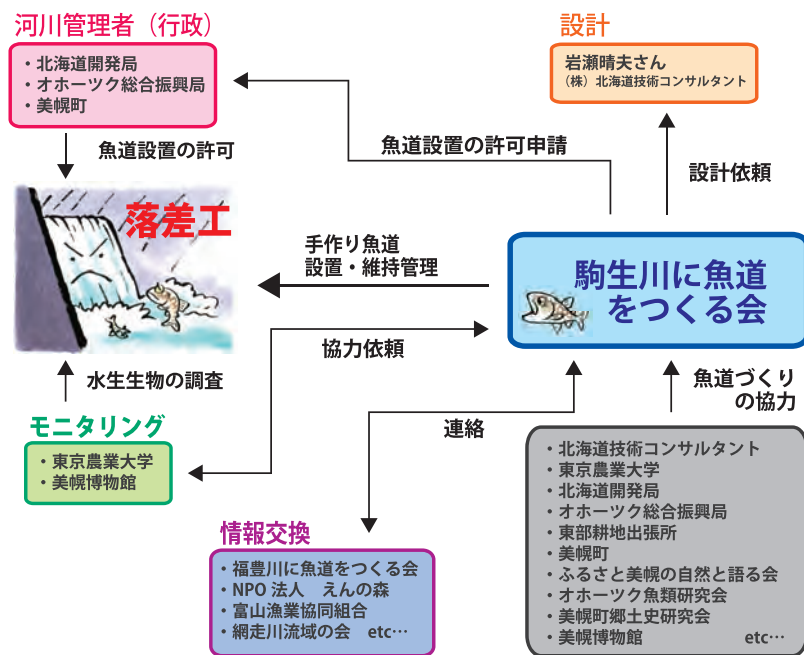
岩瀬晴夫さん  
魚道の設計

橋本光三さん  
地域のコンセンサス

神保貴彦さん  
行政との対応  
キッカケづくり

金岩稔さん・山本敦也さん  
魚道の効果検証  
魚道設置の支援

町田善康  
魚道の効果検証  
魚道づくりのPR







増水のたびに魚道を見回り、破損している場合は補修を行っています。また、ネットには木グイを打ち込み固定しています。

### 施工後の維持管理や 利活用の工夫

### 効果（二次効果・二次効果）

魚道の設置によって約40年ぶりにサクラマスやイワナの遡上が確認されました。その一方で、ハナカジカの個体数が減少しました。  
通常、落差工がない自然豊かな川では、ハナカジカの生息数が少ないです。手作り魚道の設置によって、駒生川は自然の川に近い姿へと魚類相が変化したと考えられています。

### 魚道の効果

#### 魚道の効果！ 魚の数の変化



#### 回復には魚種の違いがあった



川沿いに現れたヒグマ

### 現場のキーパーソン

橋本光三さん 駒生川に魚道をつくる会 会長

橋本さんは、地域で農業を営む農家でした。サケが落差工を遡上できない状態に気が付き、魚道づくりを切望してきました。橋本さんの思いに共感したメンバーが集まり魚道づくりがおこなわれました。



### 工法の説明・工夫した点

石を詰めたネットと丸太で落差を軽減する休息場を作り、斜路には石を配置し遡上をアシストしました。

落差が、魚の遡上を妨げていた



改良後

休息場と斜路が、魚の遡上を可能にした



### 使用材料・工具・造り方

地元産の木材や、畑から取り除かれた石を使用しました。

